



《馬千里者》1970年頃（大樋陶冶斎氏旧蔵）

白山市立松任中川一政記念美術館 館報

獨行道

独り行く道

— 第三十二号 — 二〇二四年三月号

令和5(2023)年度レポート

◆特別展

第38回国民文化祭 第23回全国障害者芸術・文化祭
いしかわ百万石文化祭2023

白山ミュージアムサーキット

「生誕130年中川一政展」

「百花繚乱―芸術の魅力とその生き方―」

会期：10月7日～11月26日

国民文化祭の地域文化発信事業「白山ミュージアムサーキット」(市立博物館・千代女の里俳句館・当館合同開催)の一環として、中川一政(1893-1991・文化勲章受章者)の生誕130年記念展を開催しました。絵画にとどまらず、書や陶芸、挿画や装丁、また短歌や詩、随筆など幅広い創作活動を展開した一政の芸術はまさに「百花繚乱」と言えます。

本展では、詩情豊かな初期作から独自の画法を模索する中期作、そして自得し花開いた円熟期作から自身に限界を定めず生み出し続けた晩年作まで、作品や関連資料78点を展覧し、画業の変遷や創作姿勢、また多彩な芸術の魅力に迫りました。また、本市の花「あさがほ」を題材にした希少な作品も公開しました。歳を重ねて力強さを増す作品の数々に、来場者からは生きていく勇氣をもらったなどの声が聞かれました。97歳の生涯を現役で全うした生き様は、人生100年時代を生きる私たちの道標となるでしょう。



「あさがほ」

1971年 廣澤美術館

本展覧会及び関連事業の開催にあたり、関係各館並びに各位にご協力とご教示を賜りましたことを、この場を借りて深く感謝申し上げます。

◆特別展関連事業

オープニングコンサート

開催日：10月7日



「白山ミュージアムサーキット」のオープニングイベントとして開催初日、展示室内を会場にコンサートを開催しました。

演奏者にチェロ奏者の富田祥さん、覚本あかりさん、館野真梨子さんを迎え、中川一政が好んだバッハやベートーヴェンなど6曲をお届けしました。(来場者：64名)

ギャラリートーク

開催日：10月8日・28日、11月12日・25日

本展の見どころや中川一政の画業の変遷、また作品にまつわるエピソードなどを担当学芸員が案内しました。(参加者：のべ24名)

記念講演会

「書のデフォルマション―中川一政の眼差し―」

開催日：10月22日／千代女の里俳句館研修室

書道学博士で書家の根本知さんを迎え、講演会を開催しました。書の長い歴史の上に一政の書を位置づけ、見るものを惹き付ける作品の魅力が鮮やかに紐解かれ、参加者が熱心に聞き入る姿が見られました。講演要旨は左頁をご覧ください。(参加者：50名)



俳句de美術館

投句募集：10月7日～11月3日(投句数79句)
記念句会：11月23日(参加者：17名)



俳人の大高翔さんを選者に迎え、本展を題材にした俳句を募り、入選句の発表や記念句会を行いました。

開催にあたり大高さんから寄せられたメッセージを紹介します。

絵の前に立ち、あるいは絵の中に入り、感じたことを小さな言葉に。その日その時の自分でなければ感じられなかったものが、俳句というささやかな詩となり、あなたの内なる宝となる。絵と俳句に共通点があるならば、限られたサイズのなかで、とてつもなく自由だということだ。そのことを、この美術館に来るたびに気づかされる。

中川一政という画家に会わせてもらったような気持ちになるこの場所で、画家の魅力はそのまま絵の魅力として、わたしを強く惹きつけてやまない。

捨て去つて捨て去つて咲く冬薔薇 大高 翔

【投句 特選三句】

向日葵が夕日の空にひとりぼっち

谷口和寿(小松市立東陵小学校)

ふと秋思忘る中川一政展 上出 洵(加賀市)

画布に盛る絵の具の厚さ秋深し 戸田敬子(白山市)

【記念句会 特選三句】

投入れの一政の薔薇脈打てり

大浦春美(白山市)

油彩の香ほのと纏ひし冬館 真砂光子(白山市)

文管に思ひ閉じ込む冬の朝 南川玲子(白山市)

南川玲子(白山市)



根本知（ねもととと）
書道学博士・書家 大東文化大学大学院博士課程修了。同大学や立正大学などで教鞭を執るかたわら、腕時計ブランド「グランドセイコー」への作品提供や、ニューヨークでの個展開催など、多岐にわたる創作活動を展開。2024年NHK大河ドラマ「光る君へ」の題字揮毫及び書道指導にも携わり活躍中。

中川一政の書との出会い

近著『書の風流』①で中川一政の書がいかによいか書いたことが縁となり、この講演会となりました。

大学の教壇で感じることは、上手いが内容を理解しないまま書いている学生が多く、文学が疎かになっている点です。私は学生時代、多様な表現に触れ、何が正しい書道か悩みました。その頃、江戸時代以降の儒学者や僧の文字は下手で間違いもあるにもかかわらず、重要な文化財や国宝になっていると知りました。そして、書道の価値を問う博士課程で研究している時、日本書道史上に職業としての書家がほほいさないことに気付いたのです。例外もありますが、書で名を残しているのは思想をもった貴族や武士などです。

私は、文字の筆法だけでなく日本文化を踏まえた表現をしたい、また、言葉を大切に書道を広めたいと思うようになり30歳の時、団体書道から離れたのですが、いざ展覧会とは違う作品を書くこととした時、自分の字とは何かという壁にぶつかったのです。手本は書いても、心を含めたい作品が書けず、もう手では無理だと思った時、(調布市)武者小路実篤記念館に一休宗純の書が展示されていると聞いて観に行きました。すると、実篤の書画が堂々と掛けてあるのです。よくこんな下手なものをと、今思えば失礼ですが当時は思ったものです。その実篤のことを一政が「詩人か、文学者か、思想家か、いやそんなカテゴリーでは縛られない。一休のように職人的手段によらずかいている」②としたためている。その書を見て、この字もいいな、実篤を理解するのに先ず一政の文章を読んでみようというのが始まりでした。

書道史・東洋思想で捉える一政

明治以降の書は、西洋的視点ではなく、東洋の書道文化史に位置づけて見ると(実篤や一政など)書壇に属さない人たちの書の魅力が分かります。

書の始まりは、古代中国・殷の甲骨文とされ、占いのためにありました。次にできた金文は青銅器に鑄込まれ、呪術などに用いられました。様々な文字は秦の始皇帝時代に統一されて篆書ができ、石に刻まれました。古来、神のための文字が、人や政治に用いられるようになったのです。そこから、効率的に彫つたり書いたりするために隷書が生まれ、時代が進むと装飾性がみられ、芸術の萌芽といえます。隷書を調べていくと、この時代既に実用的な書体として草書が見られるのです。篆書は占いの、隷書は公文書の、そして草書は秘匿文書つまり手紙のためにあつたのです。後漢の趙壹は、文字は小手下ばかりを見ず、何のためにあるのかを考えるべき③と書いています。何かを伝えたいという思いを文字に宿すことが大切なのです。

そして、東晋に書聖・王羲之が現れます。彼の「蘭亭序」は、曲水宴の即興詩ですが、後に素面で清書しても即興で生まれたものを超えられないと言いました。これが書がアートになった瞬間です。その時の感動で筆を執るとよい書になることを世に示したのです。この文字は行書ですが、行書は心や詩のためにあるのです。一回性の感動をしたため、心や詩の情景を伝えられる、つまり読める書体が行書です。王羲之の思想を行書と共に日本に伝えたのが空海です。彼の多様な書にパフォーマンズやデザイン書の萌芽を認めます。デザイン＝文様は人の心の投影です。

平安時代、漢字の中に仮名の細い線が現れ始め、藤原行成は漢字と仮名の散らし書きスタイルを構築しました。仮名は和歌のためにあるのです。歌は音であり、音を表記するために生まれたのが仮名です。自分の呼吸を表現できる文字を選択し歌を交わし、和歌文学が広まります。

その後、室町、鎌倉時代を経て武士の世となり、茶の湯では禅僧の書・墨蹟が尊ばれるようになります。一政も一休らを尊敬していましたが、禅僧は「不立文字」の精神で文字に立脚せず、綺麗に書くことに囚われていません。

江戸時代には寛永の三筆、本阿弥光悦・松花堂昭乗・近衛信伊が現れます。光悦は貴族ではないが「三十六歌仙」など雅な書を残しています。仏教者・昭乗には貴族的な書、貴族・信伊には武家風の書が残り、立場と書が一致しない時代です。彼らが誰と付き合ひ、誰に庇護されていたか、つまり何のために書いたかを考えることが重要です。こうして私が書の歴史について話してきたのは、文字・書体は何のためにあるのかを伝えるためなのです。

そして、明治・大正・昭和と一政らの時代を迎えます。意外にも、書壇の中枢にいた西川寧と一政は親しく、西川は一政の書を「骨法が実によくはたらいっている」④と評しました。骨法とは骨組みです。一政は、字の意味を理解し一本一本の線を蔑ろにせず打ち込むように書いており、石碑を思わせます。元来、彫ることから始まった文字は、時代を経て変容し、日本では敗戦後に原始回帰の動きがありました。そこに一政の書が位置付けられるのです。小松茂美は一政の書をこう評しています。「まるで、鑿を打ち込むような周到な用意と気魄と、たくましさがある」⑤「選ばれた言葉に、精神性のひらめきとかがやきがある」⑥「狙い定めた一筆一筆に心が宿ります。一政がしたためた芭蕉の言葉「わが風雅は夏炬冬扇のごとし衆に逆ひて用ふる所なし」。何かのためにあることを否定したところに本来の芸術があり、自分のために書くということです。

書のデフォルマシオンと「筆脈」

ムーヴマンは魂の動き、フォルムは形、デフォルマシオンは歪み。ムーヴマンが大きく動けばフォルムが歪む、これがデフォルマシオンです。書はムーヴマンとフォルムのせめぎ合いの際たるもの。行き過ぎれば読めなくなり、整い過ぎると心がありません。「正念場」は、雑念を払い正しい思いでその場に向かうこと。一政は常にこの姿勢で制作に臨んでいたのです。

文字を書くときの筆の流れ、離れた点画の間にある気持ちのつながりが「筆脈」です。感動を言語化したとき、言葉の枠の外にあつた純粋な感情を忘れまいと、日本人は筆を執ってきたと私は考えており、「書は言葉の身体化」と定義できます。SNS社会では、切り取られた言葉が拡散され炎上します。枠に嵌った言葉からは、人間性や温かさ、熱意は伝わりません。言葉に心をのせて表現すれば伝わるということ、一政の書が教えてくれます。これからの時代にとっても大切なことであり、これが一政の日本書道史上の大切な位置付けなのです。

①『書の風流 近代芸術家の美学』2021年春陽堂書店 / ②『中川一政「甲事」』『随筆八十八』1980年講談社 / ③趙壹(ちよいつ、後漢末の官吏・文人)「非草書(ひそうしょ)」(4)西川寧(にしかわのやすし、1902-1989年、書家、中国文学者)「永福先生の書」『中川一政書展』1976年吉井画廊 / ⑤小松茂美(こまつ しげみ、1925-2010年、古筆学者)『中川一政・虚心の笑み』『中川一政全文集第8巻・月報』1986年中央公論社

◇企画展

2023前期テーマ展

「中川一政 絵画〈え〉と題材〈モチーフ〉」

会期 I…令和5年2月28日～5月28日

II…5月30日～10月1日

中川一政は絵を描くとき、必ず描く対象である題材を何度も繰り返し見ながら筆を進めました。それは、風景画にも静物画にも通じる姿勢です。写生の精密さにこだわらない一政にとって、題材を見ることが、その輪郭をなぞるためだけにないことは明らかです。一政が幾度となく題材を見るのは、描くものと向かい合うことによって揺り動かされる自身の心、つまり感動を表現するためにほかなりません。

本展では、薔薇など花の画や風景の作品を中心に公開すると共に、そこに描かれる壺などの愛用品や、写生地の写真などを併せて紹介しました。一政が題材の何に心動かされたのか、いかにデフォルメが生まれているか、画と実物・題材を見比べることで、画家の心の動きに触れようとする企画です。



上…「薔薇」1982年



右…マジヨリ力陶器
色絵人物図壺
(中川一政愛用品
17世紀イタリヤ)

2023後期テーマ展

「中川一政 絵画〈え〉と随筆〈ことば〉」

会期…12月1日～令和6年2月25日

一政は文筆家としても知られ、生涯に多くの随筆を遺しています。

「画は生きていなければならぬ」、「感動は物指(ものさし)でははかれない。芸術の世界に物指はいらない」また、「若い時の勉強は、何でもとりいれ貯めることである。老年の仕事は、いらぬものをすててゆくことである。すて去りすて去りして、純粹になってゆくことである」など、芸術や人生について記す文章は、本質を射抜く言葉や絶妙な喩えでつづられ、今も私たちの心を捉えます。

本展では、至言ともいえる言葉や、創作にまつわるエピソードなどを、絵画や書、陶芸作品と共に紹介しました。



「魚(鯛)」1977年

抽象が具象かと云う。画が感動から発足するものであるとすれば抽象である。感動は物指でははかれない。はかれないものをはかろうとするのが芸術である。今釣り落とした魚は二尺もあつたと云う。傍の人がいや一尺くらいだと云う。前者は感動で云っている。後者は物指で云っているのだ。(中略)

芸術の世界に物指はいらない。

中川一政「抽象と具象」(「画にもかけない」1984年 講談社)

◇イベント・講座等

いしかわ・白山 風と緑の楽都音楽祭2023協賛
美術館ローズコンサート
〜ヴァイオリンとヴィオラ〜

開催日…4月19日



今回のテーマは「ドヴォルザークの前と後!!」。坂口昌優さん(ヴァイオリン)、般若佳子さん(ヴィオラ)を迎え、バッハ「インヴェンション」より二重奏曲、バルトーク「44のヴァイオリンデュオ」などをお届けしました。

(来場者…69名)

講座「中川一政文集を読む」

―「中川一政文選」⑤―

開催日…6月17日、8月19日、10月21日、
12月16日、令和6年2月17日
全5回



中川一政の著作本から彼の思想や生き様に迫る文集通読会です。今年度も「中川一政文選」(1983年筑摩書房)をテキストに、「ひと」をテーマにした随筆を読み進め、岸田劉生や木村莊八など盟友たちへの眼差しを身近に感じる時間となりました。

(参加者…のべ27名)

夏休みキッズプログラム

「一政に挑戦！油絵を描いてみよう」

開催日…7月23日



夏休み恒例の油絵体験プログラム。今年は展示室で作品を観察しイメージを膨らませた後、一政愛用のマジヨリカ壺と向日葵をモチーフに制作を行いました。ペインティングナイフを使ったり絵具を盛り上げたり、一政さながら、自分の思いを大切に作品創りを楽しむ姿が見られました。(参加者…8名)

0歳からの家族鑑賞会「ミュージアム・スタート」

開催日…10月15、16日



富田めぐみさん（NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事）を講師に迎え、小さなお子さんとその家族を対象に、アート鑑賞を通じたコミュニケーション体験を提供しました。安心して参加いただけるよう休館日に貸し切りで実施することも特徴の一つでしたが、今年は兄弟での参加やリピーターの要望を受け日曜日にも行ったところ、家族揃って参加される姿も多く見られ、0歳6か月から11歳までの子供たちと家族が参加。併せて、かわちこども園の2歳児クラスの鑑賞会も実施しました。(参加者…13組39名、こども園7名)

中川一政バースデイコンサート

開催日…令和6年2月14日



中川一政誕生日当夜のコンサートにトロイ・ゲーギンズさん、丸山奏さん、丸山萌音さんとヴィオラでバツハヤドヴォルザークからピアソラまで11曲をお届けしました。萌音揮さんが東日本大震災を経て作曲した「ミルヴィス・ミグランス（意）」は能登半島地震などを経験した来場者に希望を与えてくれました。(来場者…60名)

学校連携事業

対話型鑑賞受入れ

市教育センター	小中学生6名	4月20日
白学研図工美術部会	小中教員25名	6月7日
市立松任小学校	6年生89名	9月5・6日
はくさんひかり園	5歳児27名	11月9日
認定こども園恵愛	4歳児39名	2月7日

鑑賞授業等受入れ

金城大学短期大学部美術学科71名	5月24日
野々市市立布水中学校 美術部42名	6月17日
小松市立東陵小学校 3・4年生42名	10月26日
市立北陽小学校 2年生66名	11月15日

◆新収蔵資料

(令和5年3月～令和6年2月収蔵分)

- ・中川一政草稿「箒」(短歌5首)(購入)
- ・『音楽』第6巻第3号(1915年 東京音楽学校学友会)「一政詩「夕かせ」「秋」収録」ほか計10点(購入)
- ・『紀元二千六百年奉祝美術展覧会輯録(文部時報第七百七十七号附録)』(1940年 文部省)「樹の上の少年」収録」ほか計5点(中川達郎氏寄贈)
- ご芳志に感謝申し上げます。

◆トピックス

松任中川一政記念美術館リニューアル改修計画

本館は、1986(昭和61)年の開館以来、コレクションの充実と共に、様々な事業も展開してきました。37年を経て、施設の老朽化と様々なニーズに対応するため、増築改修の計画を進めています。



計画コンセプトは「中川一政の芸術とその魅力を次代に伝えるために」です。ロビーやカフェなど来館者ゾーンの拡充と、作品保全設備の充実を柱に26(令和8)年のリニューアルオープンを目指し、今年度は基本設計に着手しました。

計報

謹んでお悔み申し上げ、ご厚情に感謝申し上げます。

- 田邊 穰氏(令和5年1月30日 95歳/台東区) 平成28年から令和2年までに13回にわたり中川一政関連書籍等計224点を寄贈。
- 松下 良氏(同年7月25日 94歳/金沢市) 平成元年に中川一政岩彩「柿の静物」及び武者小路実篤油彩「静物」を寄贈。
- 大樋陶治斎氏(同年10月17日 95歳/金沢市) 平成20年に中川一政書「馬千里者」(表紙図版)寄贈。同年及び30年に記念講演。
- 金森千榮子氏(同年11月22日 95歳/金沢市) 昭和62年から平成22年まで24年にわたり美術館運営委員会委員を務めメディア発信等に尽力。

第29回 花を描こう絵画展

会期：令和5年7月20日～7月30日
会場：市民工房うるわし

毎年恒例の絵画公募展に、今年度は石川県内の小・中学校83校から820点が寄せられました。

表彰式は、7月29日午後、松任学習センターにて行われ、賞状と記念品が授与されました。入賞された方々は次のとおりです。（※学年は当時、敬称略）



表彰式（松任学習センター）



作品展（市民工房うるわし）

▽最優秀賞

小学生低学年の部

白山市立松任小学校1年 河上 希紀

小学生高学年の部

金沢市立三和小学校4年 山瀬 優詠

中学生の部

能美市立寺井中学校3年 出口 愛菜

動物の画賞

白山市立松任中学校3年 本多 夏実

花・風景画賞

白山市立松任中学校3年 福村 佳奈

▽テーマ賞

加賀市立動橋小学校1年 大池 權正

白山市立東明小学校2年 堀 すみれ

白山市立千代野小学校2年 吉田 花凜

白山市立松南小学校2年 金田幸太郎

金沢市立四万小学校3年 鷺田 円香

かほく市立大海小学校3年 金田 一束

白山市立松任小学校4年 三宅 那歩

金沢市立大浦小学校4年 浅村 美桜

加賀市立動橋小学校5年 大池 優心

白山市立蕪城小学校6年 上出 大登

白山市立蕪越小学校6年 竹田 光志

能美市立長田中学校1年 山崎美紗子



▽優秀校

白山市立石川小学校

白山市立美川小学校

白山市立蕪越小学校

白山市立白嶺小学校

白山市立白峰小学校

金沢市立明成小学校

金沢市立大浦小学校

白山市立松任中学校

白山市立北星中学校

能美市立寺井中学校

▽奨励賞

小学生 坂元朝希／井上翔太／菅野美統（以上2年）／山本ひと葉（以上3年）／粟谷旭陽／飯田結翔／清水翔一郎／寺田心人／越能彩稀／定舎姫那（以上4年）／近藤田良／嶺出稀子／鈴木友梨／杉森緒美／富田明（以上5年）／山本怜旺／永井沙弥／澤田実祐／勝尾綾乃（以上6年）

中学生 三宅沙奈／大西ほか／濱上仁衣子／小路環／川田芽育／土田真央美／多田菜那／矢花羽子／亀井菜月／西井麗奈（以上1年）／坂本夕奈／安原涼音／山本千愛／窪寺洋人／徳田悠乃／藤本有里花（以上2年）／石原美紗希／松井彩華／髪井真菜／吉井文柁／太田穂子／安田瑞月（以上3年）

.....

▼上位入賞作品を、制作時の想い等を綴った作文と共に紹介します。

小学生低学年の部 最優秀賞 「わたしのおとうと」

松任小学校1年 河上 希紀



「わたしのおとうと」



わたしは、おとうとの絵をかきました。なぜならいつもいっしょにあそんでいたのしかたからです。この絵をみた人がえがおになってほしいとおもってかきました。

絵をかいていて、さいしょは口のしたがりかたのしかたです。いろをつくるのもたのしかたです。いろをぬるときに、はたと口のいろがまざらないようにかくのがむずかしかったです。1ばんがんなったのはかみのけを1ばんずつかいたところです。

さいごにできた絵をみたとき、やさしいえがおのおとうとがかけてうれしかったです。この絵をみた人がえがおになってくれるとうれしいです。

小学生高学年の部 最優秀賞
「ユリの花」

三和小学校4年 山瀬 優詠



「ユリの花」



ぼくは、初めてユリの花を描きました。最初は、上手く描けるか不安だったけれど、あきらめずにがんばって描いたので、完成させる事ができました。

難しかった所は、つぼみの色がピンク色から黄緑色にグラデーションになっている所と、花びらが、うしろにまいていく所です。

つぼみの色が変わっていく所は、まず、つぼみ全体に黄緑色をぬって、かわいてからピンク色をつすくしながらぬり進めました。

花びらは、まいてあるのと、まいてないのであるのと、気をつけて描きました。

最初はできなさそうでも、「自分ならできる。」と、そう思いながら、がんばったから、できました。ぼくが大切だと思つのは、「最後まであきらめずに失敗してもがんばる。」という言葉だと思います。

中学生の部 最優秀賞
「登った先は光」

寺井中学校3年 出口 愛菜



「登った先は光」



私はこの絵を、家族で白山比咩神社に行ったときに景色がとても綺麗で描きたいな

と思ったので描きました。工夫した点は、階段を登った先が明るく見えるように、光が当たっているところを明るくしたり、白を多めに入れたりしました。また、鳥居の前に大きく描いたり、後ろにも小さく描いたりして、奥行きを出しました。特に、階段をだんだん細くするのが難しかったです。奥行きを出したり、登った先を明るくすることで、上に何があるのかな、という楽しみな気持ちやわくわくするような気持ちを表現しました。そして、この場所は階段が木でトンネルのように覆われているように感じるので、それを表せるように木を描きました。植物は一つひとつ描いたり色や形を変えたりして描きました。また、鳥居の苔や細い枝も丁寧に描きました。一生懸命描いた絵で、賞をいただけとても嬉しです。この絵を通して白山比咩神社の良さが伝わればいいなと思います。

テーマ賞 花・風景画賞
「盛夏の黄色」

松任中学校3年 本多 夏実



「盛夏の黄色」



昨年の八月、私は旧鳥越村を「ひまわりを見たい」というちょっとした理由で訪れまし

た。その日の前日は大雨で、そのため向日葵もあまり元気がなかったです。そんな中、花びらが一枚一枚強く黄色に輝く、一つの向日葵を目にしました。晴れた青空に似合い、たくましく生きるその立ち姿。私はその姿から目が離せませんでした。そして、私が人生で初めて描いた「ひまわり」となりました。

この絵を描いた時、花びらの色や光の当たり方などほぼ全てが手探りでした。毎日たくさん考えながら、あの時見た向日葵を思い出して描きました。雲を描いた時は、写真の雲ではなく、実際の雲を見て描きました。ほんの少し友達と喋っていただけで変化する雲を描くのはとても楽しく、面白かったです。

大切な先生や仲間がいる場所で描いた忘れることのできない大切な「ひまわり」の作品。これからも私は、そんな大切な日々を形として残せる絵を描いていきたいです。

テーマ賞 動物の画賞
「何かをみつめる猫」

金石中学校2年 福村 佳奈



「何かをみつめる猫」



この度は素晴らしい賞をいただきありがとうございます。ありがとうございます。私は動物がとても好きなので、私の家はベッ

ト禁止なので動物を見る機会がありませんでした。少し前は一カ月に二回ほど県内の牧場に行っていました。そこでは牛やうさぎ、馬などの動物がいるのですが、他にねこもいました。そのねこはねこ力フェよりもずっと、人懐っこくてかわいかったので私はとてもそのねこが好きでした。でも、中学にあがってからは勉強や習い事などで忙しくなり、全然いけなくなっていました。そこで今回、この「花を描こう絵画展」の応募でねこをかきました。あのとき戯れたねこの思い出を考えて描きました。これからも絵を楽しく描いていきたいと思っています。

令和6年度インフォメーション

※都合により変更の場合があります。
最新情報を館ウェブサイトや電話等で確認の
うえ来館されることをお勧めします。



企画展(所蔵作品テーマ展)

春季テーマ展「中川一政の薔薇―明日への眼差し―」
会期…2月27日(火)～5月26日(日)

夏季テーマ展「中川一政の向日葵」
―フォルムとムーヴマン―
会期…5月28日(火)～9月1日(日)

秋季テーマ展「中川一政 書と陶芸の世界」
―画家の余技を超えて―
会期…9月7日(土)～11月24日(日)

冬季テーマ展「私が選ぶこの1点!」
中川一政推し作品展
会期…11月26日(火)～令和7年3月30日(日)

公募「第30回中川一政記念 絵画コンクール」 & 歴代優秀作品展

6年度から名称・開催時期が
変更になります!

対象 象…石川県内の小中学生
テーマ…自由(花・風景・動物・家族など)、
又は、「私のふるさと」(市制20周年記念特設)

募集期間…8月下旬～11月24日(日)
作品展…令和7年1月16日(木)～1月26日(日)

市民工房うるわし

表彰式…1月18日(土)午後/松任学習センター
歴代優秀作品展

第30回を記念して、当館に收藏された歴代の上位
入賞作品を一堂に展示公開します。(平成15年以降
の最優秀賞や美術館賞、テーマ賞受賞作品が対象
です。)

コンサート

中川一政バースデイコンサート
日時…令和7年2月14日(金)

講座・ワークショップ等

「中川一政文集を読む」『中川一政文選』⑥
日時…6月15日(土)、8月17日(土)、10月19日(土)、
12月21日(土)、7年2月15日(土) 11時～
夏休みキッズプログラム「一政に挑戦!油絵体験」
日時…7月28日(日) 全日

対象…小学4年生～中学生/定員…10人程度
0歳からの家族鑑賞会「ミュージアムスタート」
日時…10月20日(日)午後、21日月・休館日 午前
対象…0歳から未就学児とその家族/要申し込み
講師…NPO法人赤ちゃんからのアートフレンド
シップ協会

美術館句会(開催日調整中)

対話型鑑賞のススメ

未就学児から児童生徒を対象に、対話型の
鑑賞を随時実施しています。子供たちの主体
的な発言と対話から鑑賞を深め、多様性を認
め合う心も育まれます。気軽にお問い合わせ
ください。

令和6年度友の会 会員募集

特典

入館料フリー(特別展は別途必要)、企画
展ほか各種催し案内、別館喫茶室優待、
館報の送付等

年会費 一般 1000円、高校生 500円
期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日

利用案内

開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
休館日 毎週月曜日(祝休日の場合は次の平日)
及び12/29～1/3

入館料

一般 200(100)円
高校生 100(50)円

※特別展は別途設定する場合があります。

※()は20名以上の団体料金です。

※障がい者手帳を提示の方とその介護者1名は無料です。
※毎月第3日曜日(家庭の日)は、市民の入館が無料です。



後記

いよいよ美術館のリニューアル計画が動きだしました。(↓5頁トビックス) 現在の本館は約400㎡と小さめですが、建物を上から見ると一政先生が愛した薔薇の形がモチーフです。
リニューアルでは、展示室を巡り一政ワールドを堪能できる空間を生かしつつ、来館の皆様により豊かな鑑賞体験と寛ぎを提供すること、そして500点を超えるコレクションの魅力発信し続け次代に伝えていくことを大切に進めていきます。どうぞご期待ください。(T)

白山市立松任中川一政記念美術館 館報 独行道 第三十二号
発行 2024(令和6)年3月
編集 白山市立松任中川一政記念美術館
〒924-0888 石川県白山市旭町61番地1
電話/FAX 076(275)7532

題字揮毫 中川一政(提供 北國新聞社)